



**NIPPON
EXPRESS**

We Find the Way

日本通運グループは、**N X** へ。

BUSINESS REPORT

年次報告書 | 2021年4月1日 → 2021年12月31日

NEX **NIPPON
EXPRESS**

We Find the Way

証券コード No.9147



株主の皆様には、平素より格別のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。日本通運グループは、2022年1月4日に「NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社」を設立し、持株会社体制へと移行しました。新体制のもと更なる成長と企業価値向上を図ってまいります。

代表取締役社長 齋藤 充

2022年1月、当社グループはホールディングス体制へと移行し、NIPPON EXPRESSホールディングスを持株会社として、新たなスタートを切りました。

物流事業を取り巻く環境は、新型コロナウイルスの影響により、世界的に不安定かつ予測困難な状況にあることに加え、SDGsやDXへの対応など、グローバルレベルで取り組むべき課題が山積しています。こうした中にあっても、現経営計画で掲げる長期ビジョン「グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー」の実現に向けて、スピーディーな意思決定と企業グループとしての価値最大化を図るため、今回、経営体制の再編を実施致しました。

あわせて、新たにグループブランド「NX」を導入し、当

社グループ名も「日本通運グループ」から「NXグループ」へと刷新しました。当社グループは1937年の創設以来、物流を通じて人、企業、地域を結び、社会の発展に貢献することで、日本から世界へと事業を拡大してまいりました。今後もこの使命は変わることはありません。新しいブランドの下、グループの力を結集し、自らを進化させ続け、物流から新たな価値を創造することに挑戦し続けてまいります。

NXグループは、長期的視野に立ったサステナブルな経営を実践し、いつの時代にもお客様や社会から求められ、信頼される存在になることを目指すとともに、グループの力を束ねて、更なる成長と、より一層の企業価値向上に努めてまいります。

2021年12月期は、日本国内の物流は、昨年10月以降、一部の産業に新型コロナウイルス感染症拡大による落ち込みから回復が見られましたが、農産物の不作や、自動車減産の影響等もあり、低調に推移しました。一方、海外および国際物流は引き続き堅調で、自動車産業や電機電子産業を中心に、ロックダウン解除後、取扱数量が大幅に増加いたしました。こうした結果、日本通運株式会社の第116期連結経営成績につきましては、**売上高は1兆7,632億円、営業利益は687億円、経常利益は736億円、親会社株主に帰属する当期純利益は540億円**となりました。

NXグループは、2019年4月よりスタートさせた5年間の経営計画については、取組みの骨子や基本戦略についての変更は行わず、残り2年の期間でNXグループの変革を更に加速させるため、ホールディングス体制移行により重点的な取組み主体を明確化するとともに、経営数値目標および各種KPIについての修正を行うこととし、「NXグループ経営計画2023～非連続な成長“Dynamic Growth”～」として、引き続き取組むこといたしました。

「事業の成長戦略」

- 「コア事業の成長戦略」につきましては、グローバルアカウントマネジメントを推進し、重点5産業や、非日系顧客への取組みを加速させるとともに、航空および海上フォワーディング事業やロジスティクス事業の強化を通じて、お客様のグローバルサプライチェーンへの貢献領域の拡大に努めてまいります。
エリア軸においては、海外事業の確実な伸長を実現するため、重点産業の強化を中心とした投資を拡大するとともに、新興エリアでの事業拡大の取組みを進めてまいります。
- 「日本事業の強靱化戦略」につきましては、当社グループ事業の核となる日本国内物流事業の収益性の更なる改善と経営基盤の強化に向け、グループで重複する管理組織のスリム化、事務プロセスの更なる改革を進めるとともに、関東圏、中京圏、近畿圏などの主要マーケット

への経営リソースの集中と、グループ内で重複する事業の整理を含めた事業ポートフォリオの見直しなどを進めてまいります。

「長期ビジョン実現のための取組み」

- 「取組みを支える機能の強化」につきましては、IT、R&D戦略における物流先端技術の実用化やAI、RPA等の活用を拡大し、労働力不足の解消と安全・安心で高度なオペレーションの実現を通じ、競争優位性の確保と、生産性の向上や働き方改革に繋げていくとともに、デジタルトランスフォーメーションによる事業変革とイノベーションを推進してまいります。また、新たに導入したグループブランド「NX」によるブランディング戦略を展開し、グローバルな認知度向上を推進してまいります。
- 「持続的成長と企業価値向上のためのESG経営の確立」につきましては、サステナビリティを巡る課題に対し、鉄道や海上輸送などを利用した複合輸送商品の開発と提供など事業を通じたお客様への貢献を拡大するとともに、再生エネルギーの活用や、施設照明のLED化、車両のEV化などを推進し、CO₂排出量の削減を更に推進してまいります。また、「社員が幸せを感じる企業」への変革を目指し、エンゲージメント強化のため、更なるダイバーシティ経営を推進してまいります。ガバナンス強化については、ホールディングス制移行により、経営資源の調達・適正配分、事業ポートフォリオ戦略、リスクマネジメントの強化・推進など、グローバル・グループガバナンスの強化をしてまいります。

NXグループは、長期ビジョンである「グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー」の実現に向け、新たなホールディングス体制で変革を加速させ、更なる成長を目指し、株主の皆様のご期待にお応えする所存でございますので、引き続き株主の皆様のご理解とあたたかいご支援をお願い申し上げます。

2022年3月

2022年1月、当社グループはホールディングス体制へと移行し、 NIPPON EXPRESSホールディングスを持株会社として 新たなスタートを切りました。

企業理念

私たちの使命 それは社会発展の原動力であること
私たちの挑戦 それは物流から新たな価値を創ること
私たちの誇り それは信頼される存在であること

私たちNXグループは、創業以来、ものを運ぶことを通して、人、企業、地域を結び、社会の発展を支えてきました。

この変わらぬ使命を果たすため、社会の変化をとらえ、自らを進化させ続けます。

安全に徹し、環境に配慮し、世界を舞台にすべての力を結集して、物流から新たな価値を創造することに挑戦していきます。

いつの時代にも、社会から求められ、信頼されることを誇りに行動します。

すべては、物流を通して社会に貢献し、豊かな未来を創る、NXグループであるために。

企業メッセージ

We Find the Way

運ぶこと。それは、新しい未来をつくろうとするお客様の思いを実現すること。
だから、どんなときでも、ただ一つの最善の方法を見つけ出し、必ずやり遂げる。
このような、私たちの強い意志と自信を、この企業メッセージに込めています。

We

従業員一人ひとりの力が物流の現場を動かしていること。そして、志を同じくする一人ひとりの力を結集させたチームだから最適な物流サービスを提供できること。これら2つの意味を表すために、一人称・複数形である「We」を用いました。

Find

たとえ今あるやり方に当てはまらなくても、実現するための方法を模索し探し出す、という姿勢を表しています。この姿勢が、これまでもこれからも、変わらない普遍的なものであることを表すために、現在形の「Find」を用いました。

the Way

あらゆる可能性の中から導き出した、ただ一つの最善の方法を提供する。このことを表すために、「a Way」でも「the Ways」でもなく、「the Way」としました。また、人と人、ビジネスとビジネスの間に道を築き、つないでいく物流企業である、というメッセージも込めています。

グループブランドの導入

NXグループは、急速な社会環境の変化や技術革新の進展に対応し、国内、海外のお客様に対し、より高度かつ高品質なサービスを提供するため、ブランド力強化の一環として、グループ統一のブランドアイデンティティを2022年1月4日から導入しました。

マルツウマークからNXグループブランドシンボルへ



シンボルに込めた想い

- 新たなホールディングス社名でありかつ日本および海外で信頼を獲得しているNIPPON EXPRESSの短縮形であるNXをシンボル化しました。
- 当社グループの長期ビジョン「グローバル市場で存在感を持つロジスティクスカンパニー」の実現に向け、国内外におけるグループ総力を挙げた進化を推進するグループブランディング上の旗印としての役割を担うものとなります。
- 企業メッセージである「We Find the Way」を体现し、企業、産業、社会の発展を支えていく力強い意思を表明しています。



[縦組み]



[横組み]

グループカラーについて

新ブランドシンボル制定に合わせ、フレッシュグリーンとネイビーブルーの2色の組み合わせを新たなグループカラーとして採用いたしました。この2色の組み合わせは、グローバル市場において当社グループの存在を際立たせるものであると同時に、グループとして以前より大切にしており今後の成長にも欠かせないとする価値観を表現しています。



「NXグループ経営計画2023～非連続な成長“Dynamic Growth”～の修正について

経営計画見直しの方向性

大きな計画変更はせず、引き続き、長期ビジョンの達成に向けて取り組む

経営数値目標

売上高・営業利益（率）・純利益・海外売上高・ROE・FWD数量
セグメント別（ロジスティクス・重機建設・警備輸送・物流サポート）

NXグループ経営計画2023 取組み骨子

コア事業の成長戦略

- グローバル市場での成長
- 国内大都市への経営資源集中

日本事業の強靱化戦略

- 専門事業の収益性向上
- 営業・事務生産性の向上
- 低収益事業の抜本的改革

長期ビジョン実現のための取組み

- 非連続な成長戦略
- 取組みを支える機能強化
- 持続的成長と企業価値向上のためのESG経営の確立

2022年～2023年度

NXグループ誕生 ホールディングス体制で変革を加速

- **事業ポートフォリオの見直し**
グループ事業の再編
- **専門事業の強化**
警備輸送事業分社化による事業強化
- **非連続な成長**
海外におけるM&Aの強化
- **ガバナンスの強化**
グローバル統括機能の進化
- **ブランド戦略**
NXグループブランドのグローバル浸透・強化

2037年長期ビジョン
「グローバル市場で存在感を
持つロジスティクスカンパニー」

長期ビジョン実現のための取組み

取組みを支える機能の強化

IT戦略のイノベーション

- 顧客提供価値の向上
- 生産性向上・働き方改革の実現
- グループ全体最適を実現する基盤整備

R&Dのイノベーション

- グループ内R&D機能の連携強化
- 業務の効率化（自動化・機械化）、省力化
- デジタル化による新規事業創出

人財戦略のイノベーション

- グローバル経営を担う幹部育成
- プロフェッショナルの確保・育成

広報戦略のイノベーション

- 世界で競争優位性を築くブランディング戦略
- 品質・実力・実績に関する認知度向上
- 海外での知名度向上

経営計画の修正後

DXの推進によるイノベーション

DXによる事業変革とイノベーション

- 従来業務のデジタル化による効率化・経営の高度化
- グループ内R&D機能の戦略性と連携の強化
- DXによる顧客提供価値の革新と事業領域創造

広報戦略のイノベーション

グループブランド「NX」によるブランディング戦略の展開

- 世界で競争優位性を築くためのNXブランド浸透戦略
- マーケティングと連動した「品質・商品・サービス」「DX」「ESG経営」の訴求
- グローバル広報体制構築と先端メディア&海外メディア戦略

（追加）外部企業との共創によるオープンイノベーション

+ 外部企業との共創を通じ、事業強化と新事業領域への探索を行う

- 提携企業との共創推進
- VCファンドへの投資を通じたスタートアップ企業との共創

その他戦略・施策については、計画変更はせず、推進・強化に向け取り組む

長期ビジョン実現のための取組み

持続的成長と企業価値向上のためのESG経営

物流企業としてCO₂排出量削減にこだわる

E 環境
Environment

- 施設照明のLED化
- 環境配慮車両への切替え

【事業を通じた貢献】

- モーダルシフト・共同配送の推進
- 資源循環営業の取組み



社員が幸せを感じる企業に変革する

S 社会
Social

- ダイバーシティの推進
- ワークスタイルのイノベーション

【事業を通じた貢献】

- 災害時指定公共機関
- 雇用や社会課題解決を通じた地域社会への貢献



経営計画の修正後

E 環境
Environment

KPIの修正
(CO₂排出量削減目標の上方修正)

S 社会
Social

KPIの追加と数値修正
(男性育児休業取得率の追加)

持続的な企業価値向上を支える仕組みを構築する

G ガバナンス
Governance

- 安全・コンプライアンス・品質の徹底
- ホールディング制を視野に入れたグローバルガバナンスの進化
- 資本政策 (ROE10%)
- 情報開示



G ガバナンス
Governance

<追加>

- ホールディングスによるグローバル・グループガバナンスの強化
- リスクマネジメント・危機管理の強化

<追加> ESG経営全体としての取組み:気候変動への対応

KPI

E 環境	指 標	2023年度目標 (当初)	2023年度目標 (修正後)
CO ₂ 排出量削減 (日本通運単体)	2013年比	10%相当削減 (排出量440,069t)	30%相当削減 (排出量350,000t)
S 社会	指 標	2023年度目標 (当初)	2023年度目標 (修正後)
ダイバーシティの推進	年次有給休暇取得率	2017年度比倍増 (50%)	取得率50%▶60%に修正
	男性育児休業取得率	※新規追加	取得率40%

新たに取組むべきテーマに対する推進施策を追加

G ガバナンス
Governance

ホールディングスによるグローバル・グループガバナンスの強化

ホールディングス制移行により、経営資源の調達・適正配分と事業ポートフォリオ戦略、リスクマネジメントを強化・推進

- グローバル統括機能の進化 (エリア統括機能・グローバル事業統括機能)
- リスクマネジメント・危機管理の強化
- 事業ポートフォリオ戦略の強化と事業ポートフォリオマネジメント体制の確立
- グループ事業の再編
- コーポレートガバナンスの継続的改善
- グループ財務ガバナンスの強化 (ROIC活用の推進)

※経営計画修正の詳細については、当社ホームページをご覧ください。

<https://www.nipponexpress-holdings.com/ja/ir/library/news/>



2021年12月期 日本通運株式会社連結経営成績

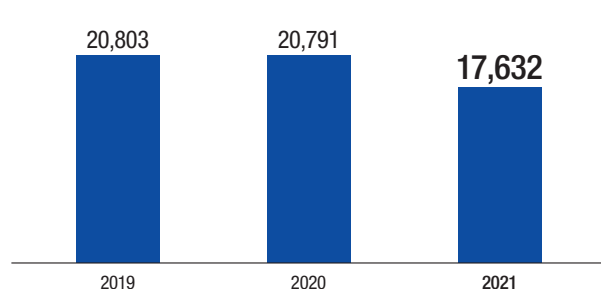
売上高

1兆7,632億円

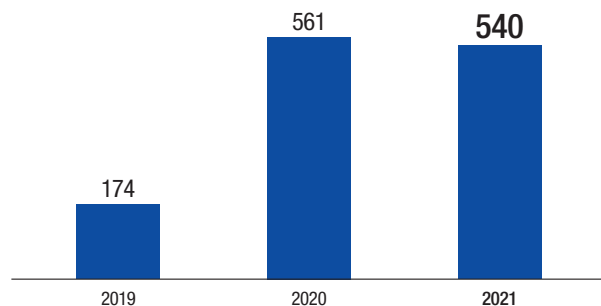
親会社株主に帰属する当期純利益

540億円

売上高 (単位: 億円)



親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 億円)



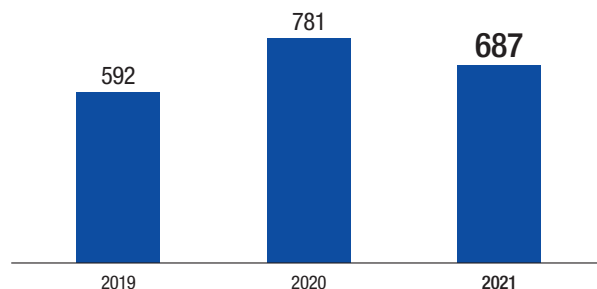
営業利益

687億円

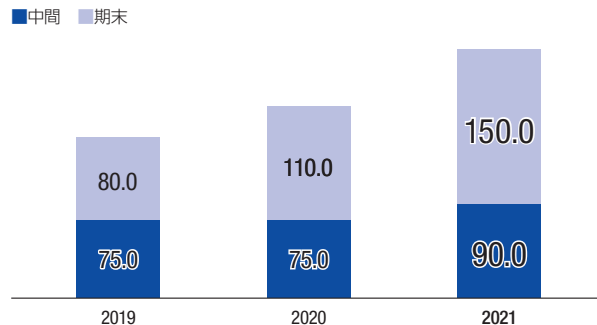
期末配当金

150.0円

営業利益 (単位: 億円)



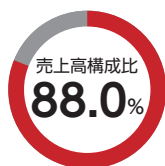
1株当たり配当金 (単位: 円)



※当社は、2021年度より決算期を3月31日から12月31日に変更しております。従いまして、経過期間となる2021年12月期の連結業績は、2021年4月1日から2021年12月31日の9ヶ月間の数値を記載しております。

※2021年12月期(2021年4月1日～2021年12月31日)の剰余金の配当(期末配当)につきましては、2021年12月31日の最終の株主名簿に記載または記録された株主様または登録株式質権者様に対し、日本通運株式会社からお支払いします。

ロジスティクス



売上高

1兆5,526億円

営業利益

676億円

日本 57.2%
米州 4.9%
欧州 7.5%
東アジア 10.1%
南アジア・オセアニア 8.3%

警備輸送



売上高

513億円

営業利益

1億円

重量品建設



売上高

358億円

営業利益

49億円

物流サポート



売上高

2,671億円

営業利益

77億円

※グラフの比率は調整額を除いて作図しております。

※当社は、2021年度より決算期を3月31日から12月31日に変更しており、前期は、当社及び3月決算の連結子会社については2020年4月1日から2021年3月31日までの損益を、従来より12月決算の連結子会社については、2020年1月1日から2020年12月31日までの損益を基礎として連結しておりますが、当期は、2021年4月1日から2021年12月31日までの損益を基礎として連結しております。このため、対前期増減額及び増減率については記載しておりません。

連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前連結会計年度 (2021年3月31日現在)	当連結会計年度 (2021年12月31日現在)
資産の部		
流動資産	771,894	708,598
固定資産	859,961	909,622
有形固定資産	607,503	664,126
無形固定資産	82,717	83,034
投資その他の資産	169,740	162,461
資産合計	1,631,855	1,618,221
負債の部		
流動負債	515,487	474,824
固定負債	515,660	486,444
負債合計	1,031,148	961,268
純資産の部		
株主資本	567,695	603,193
その他の包括利益累計額	14,817	33,381
非支配株主持分	18,194	20,376
純資産合計	600,707	656,952
負債純資産合計	1,631,855	1,618,221

※各財務データにつきましては持株会社体制移行前の日本通運株式会社の連結決算の情報となります。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	前連結会計年度 (2020年4月1日～2021年3月31日)	当連結会計年度 (2021年4月1日～2021年12月31日)
売上高	2,079,195	1,763,282
売上原価	1,885,888	1,603,177
売上総利益	193,307	160,104
販売費及び一般管理費	115,206	91,350
営業利益	78,100	68,754
営業外収益	8,933	9,830
営業外費用	5,757	4,956
経常利益	81,276	73,627
特別利益	34,274	11,367
特別損失	30,731	5,711
税金等調整前当期純利益	84,819	79,283
法人税、住民税及び事業税	34,675	19,280
法人税等調整額	△7,655	3,616
法人税等合計	27,019	22,896
当期純利益	57,799	56,386
非支配株主に帰属する当期純利益	1,697	2,336
親会社株主に帰属する当期純利益	56,102	54,049

※当社は、2021年度より決算期を3月31日から12月31日に変更しており、前期は、当社及び3月決算の連結子会社については2020年4月1日から2021年3月31日までの損益を、従来より12月決算の連結子会社については、2020年1月1日から2020年12月31日までの損益を基礎として連結しておりましたが、当期は、2021年4月1日から2021年12月31日までの損益を基礎として連結しております。

NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社役員(2022年1月4日現在)

取締役

代表取締役会長



渡邊 健二

取締役会議長

代表取締役社長 社長執行役員



齋藤 充

最高経営責任者
日本通運株式会社代表取締役社長
社長執行役員

代表取締役副社長 副社長執行役員



堀切 智

コーポレートマネジメント本部、
リスクマネジメント本部担当
コーポレートマネジメント本部長
日本通運株式会社代表取締役
副社長 副社長執行役員

取締役 常務執行役員



鈴木 達也

リスクマネジメント本部長
コンプライアンス・リスク統括部、
法務知財部、内部監査室担当

増田 貴

経営戦略本部長
日本通運株式会社取締役
常務執行役員

取締役 執行役員



赤間 立也

人財戦略統括部、コーポレート
コミュニケーション部担当
人財戦略統括部長
日本通運株式会社執行役員

取締役



中山 慈夫

(注)中山 慈夫、安岡 定子および柴 洋二郎の各氏は、社外取締役であります。



安岡 定子



柴 洋二郎

監査役

常勤監査役



有馬 重樹



溝田 浩司

監査役



野尻 俊明



青木 良夫



讃井 暢子

(注)野尻 俊明、青木 良夫および讃井 暢子の各氏は、社外監査役であります。

執行役員

副社長執行役員

近藤 晃 (Akira Endo)

専務執行役員

内田 敏朗 (Torayama Torayama)
杉山 龍雄 (Ryūhiko Sugiyama)

常務執行役員

中川 真人 (Masato Nakagawa)

執行役員

田中 博之 (Hiroyuki Tanaka)
大槻 秀史 (Shiichi Ohtsuki)阿部 俊哉 (Shun'ya Abe)
北井 利一 (Ryōichi Kitai)柿山 慎一 (Shinichi Kakiyama)
大辻 智 (Tomohisa Ohtsuki)海野 昭良 (Akira Ueno)
赤石 衛 (Ei Akashi)

会社概要 (2022年1月4日現在)

会 社 名	NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社
本 社	〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町2番地 TEL: 03-5801-1000 https://www.nipponexpress-holdings.com/
設 立	2022年1月4日
資 本 金	701億75百万円
事 業 内 容	貨物自動車運送事業等を営むグループ会社の 経営管理およびそれに附帯する業務

株式の状況

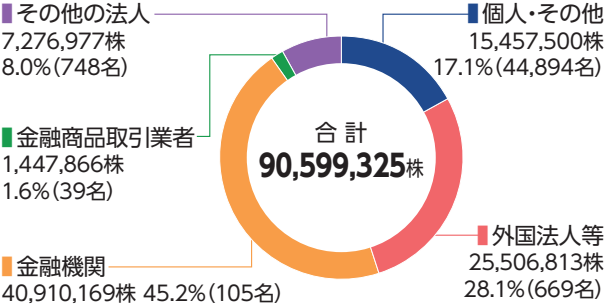
株 式 数	発行可能株式総数	398,800,000 株
	発行済株式の総数	90,599,325 株
株 主 数		46,455名

大 株 主

株 主 名	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	13,569	15.0
株式会社日本カストディ銀行(信託口)	6,757	7.5
朝日生命保険相互会社	5,601	6.2
日通株式貯蓄会	3,778	4.2
損害保険ジャパン株式会社	3,567	3.9

所有者別株式の分布状況

〈株式数および比率〉



※株式の状況、大株主、所有者別株式の分布状況につきましては、2021年12月31日現在の日本通運株式会社の状況を記載しております。

単元未満株式買取・買増請求制度のご案内

買取請求

100株未満の株式を、当社に対して市場価格で売却できる制度です。

(例) 60株を保有の場合、市場では売却できませんが、市場価格で当社が買い取りいたします。

当社に市場価格で
売却

60株

60株

=



現金化

買増請求

100株(単元株式)に不足する数の株式を、当社から市場価格で買い増し、単元株にすることができる制度です。

(例) 60株を保有の場合、40株を買い増して、100株とすることができます。

40株を、当社から市場価格で

購入

60株

+

40株

=

100株

単元株式
(100株)

各種お手続きのお申し出先

①証券会社口座にある株式 ▶ お取引先の証券会社

②特別口座にある株式 ▶ 三菱UFJ信託銀行

(※下記までお問い合わせください。)

東京都府中市日鋼町1-1

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

☎ 0120-232-711

<https://www.tr.mufg.jp/daikou/>

株式の諸手続きについては当社ホームページでもご案内しております。

<https://www.nipponexpress-holdings.com/ja/ir/stock-info/procedure/>



NIPPON EXPRESS 株式諸手続き

検索

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から 12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	定時株主総会 12月31日 期末配当金 12月31日 中間配当金 6月30日
単元株式数	100株
上場取引所	東京
証券コード	9147
銘柄略称	NXHD

株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関	
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 ☎ 0120-232-711 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
公告方法	電子公告 ただし、事故その他のやむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、東京都内で発行される日本経済新聞に掲載して行います。 電子公告掲載ホームページアドレス https://www.nipponexpress-holdings.com/

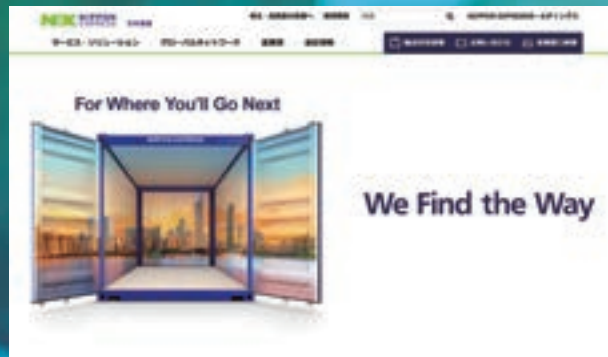
CORPORATION

NIPPON EXPRESSホールディングスのオフィシャルサイトがスタート。最新ニュースやIR情報などを発信しています。
<https://www.nipponexpress-holdings.com/>



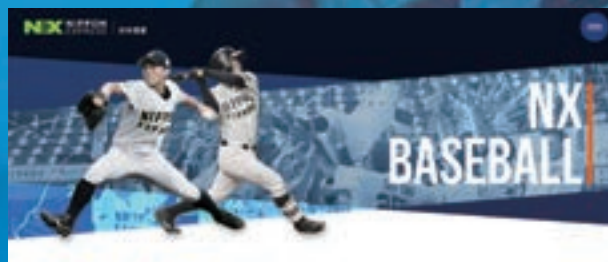
CORPORATION

日本通運の事業内容やサービス紹介、最新ニュースなどを発信しています。
<https://www.nittsu.co.jp/>



SPORTS

部活動を通して、様々なスポーツの普及、振興、国際化に努めております。
<https://www.nittsu.co.jp/sports/>



TVCM

放映中のTVCMやTV番組を通じて、当社が展開している様々な取組みを多くの方々にお伝えしています。
<https://www.nipponexpress-holdings.com/ja/about/video/>



企業「NX UPDATE」 画 30秒

原英莉花プロ「UPDATE」 画 30秒

LinkedIn公式アカウント
 Linked in

海外のNXグループで手掛ける事業内容を中心に、様々な情報を世界のビジネスユーザーに向けて発信しています。
<https://www.linkedin.com/company/nippon-express-group/>



Youtube公式チャンネル

TVCMや企業活動、歴史など当社にまつわる情報を映像でご覧いただけます。
<https://www.youtube.com/channel/UCatNmOs5hJzVWMfQeUnaQ>



NIPPON EXPRESSホールディングス誕生。

2022年1月4日、
日本通運グループは、NXグループとして
ホールディングス体制に移行しました。

日本通運グループは、グループの旗を「NX」に統一。
レガシーのすべてを受け継ぎ、グローバル市場での新たな飛躍へ向けてスタートしました。
ロジスティクスを進化させる創造性と実行力で企業・産業・社会の発展を支えていく、
真のグローバルビジネスパートナーへ。グループ全員がひとつに結束し、
国内・海外のお客様に、より高度で高品質なサービスを提供していきます。
NXグループの挑戦に、ご期待ください。



NX NIPPON
EXPRESS

NX NIPPON
EXPRESS
We Find the Way

NIPPON EXPRESSホールディングス株式会社
〒101-0024 東京都千代田区神田和泉町2番地
TEL: 03-5801-1000
URL: <https://www.nipponexpress-holdings.com/>



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。